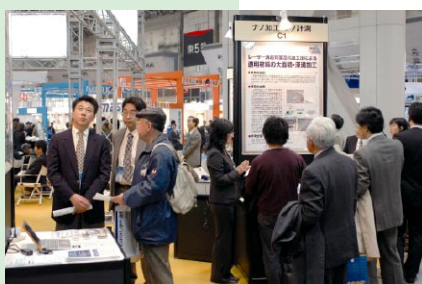


nano tech 2006 に 参加して



ナノテクノロジーは、物質・材料の機能を飛躍的に向上させる製造技術であり、情報通信、エネルギー・環境、バイオなど様々な技術の基盤となるものです。わが国の第3期科学技術基本計画でも、第2期に続いて、ナノテクノロジー・材料が重点分野の一つに挙げられる予定です。また、国際的関心も極めて高く、産業化への展開を見据えつつ各国が積極的に取り組んでいます。



ナノテクノロジーをメインテーマとした「nano tech 2006 国際ナノテクノロジー総合展・技術会議」（主催：nano tech 実行委員会、後援：産総研他）が、2006年2月21日から23日の3日間にわたり、東京ビッグサイトで開催されました。この展示会・技術会議は2002年より毎年開催されているものですが、ナノテクノロジーへの社会、特に産業界の期待が高まる中、年々その規模を拡大し、いまやナノテクノロジーに関する世界最大の先端技術・製品の商談の場となっています。また、展示会と平行して多数の技術会議が開催され、最新の研究開発成果が展示・発表されます。さらに、ナノテクノロジーに関心を持つ多くの関係者が共同

研究や事業提携による産業促進を図る場、ベンチャー企業のビジネス・チャンス創出の場であり、国際的にも情報交換、協力・交流促進などを図る出会いの場ともなっています。これまでも増して盛況だった今回の nano tech 2006 の入場者数は3日間で45,868名（主催者発表）にのびりました。

今回の nano tech 2006 で産総研は、ナノテクノロジー・材料・製造分野に属する研究ユニットを中心として様々な分野の研究ユニットの研究成果の一部を紹介しました。産総研展示ブースはもちろん、NEDO ブースや併設シンポジウムでもさまざまな成果を紹介しましたので、簡単に報告します。

産総研ブース

今回は産総研は展示ブースを設け、産総研が進めている研究成果の一部を出展することにしました。エネルギー関連で3件、ナノオプティクス関連は1件、ナノ加工・ナノ計測に関連して8件、ナノバイオ関連では2件、そしてナノマテリアルに関連して9件と、社会的に注目されている分野を中心に、合計23件の成果を発表・展示しました。今回は、特にビジネス・チャンスにつなげることを意識して、今まで以上にプロトタイプ化した形での展示をこころがけました。

これらの成果発表に加えて、今回の展示会ではベンチャー企業に関連する



参加者が多いことから、産総研のベンチャー開発戦略についても紹介しました。また、今後のナノテクノロジー産業にとって重要な問題となっていくであろう「ナノテクノロジーと社会との関わり」についての研究成果の一端も展示しました。

研究成果の展示に加えて、産総研ブース内にスクリーンと20席程度の座席を設置し会期中の午後に小規模ながら技術プレゼンテーションも行いました。毎日7~8件、合計で23件のプレゼンテーションを行いました。来場者の方々から熱心な質問をいただくなど、時間が足りなくなる場面もあり、残念であると同時にうれしくもありました。

産総研ブースはnano tech 2006のメインシアターのすぐそばに位置していたこともあり、たいへん多くの方々のご来場をいただくことができました。産総研のナノテクノロジー研究のこれまでの成果、そして今後の動向をご覧いただけたのではないのでしょうか。また、その中で共同研究への発展や知的財産権の実施に結びつくような問い合わせを企業の方々から多数いただき、非常に有意義であったと考えています。

なお、産総研ブースでの成果発表の要旨集（英語訳つき）を5000部用意していましたが、最終日の午後にはなくなってしまい、来場いただいた方々にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。同要旨集は下記のウェブページで、日本語版、英語版ともにご覧いただけるようにしていますので、ぜひ、ご利用ください。

http://www.aist.go.jp/aist_j/event/ev2006/ev20060221/list.html



NEDOブース

産総研では、経済産業省や文部科学省が推進するナノテクノロジー関連の国家プロジェクトに積極的に参画し、その進捗を図っています。経済産業省が進めるプロジェクトの成果はNEDOブースにて紹介されていますが、産総研もナノテクノロジー研究部門、計測標準研究部門、先進製造研究部門をはじめとして17件の研究成果を発表しました。

NEDOブースにて発表した産総研関係の成果の要旨は、下記のウェブページでご覧いただけます。

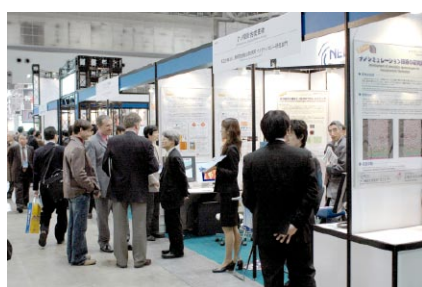
http://www.aist.go.jp/aist_j/event/ev2006/ev20060221/nedo.html

nano week 2006

2月20日~23日は nano week 2006 と銘うって、16のシンポジウム、ワークショップなどが国際ナノテクノロジー総合展と平行して、同じく東京ビッグサイトで開催されました。

21日には、産総研とナノテクノロジー標準化国内審議委員会の主催で「ナノテクノロジー国際標準化ワークショップ」が開催されました。ナノテクノロジーの産業化と適切にリスク評価をめざして、規格作成作業が急速に展開していくと予想されるなか、ナノテク標準化の関係者から国際標準化の動向の紹介や、わが国とアジア諸国におけるナノテク標準化の取り組みの紹介があり、今後の方向性が示されました。

22日には、産総研主催で「産総研シンポジウム：成功を目指せナノテクベンチャー」を開催しました。ナノテクノロジーの産業化においては、これまでと次元の異なる価値観と行動モデルが必要であろうとの認識から、日本



のナノテクベンチャーの可能性とその課題を明らかにするため、ナノテクベンチャーに様々な角度から関わり、ベンチャー育成においてリーダーシップを発揮されている第一線の識者による講演とパネル討論が行われました。

また、23日に開かれたナノテクビジネスフォーラム2006におけるビジネスプランコンテストで村瀬至生 産業技術企画調査員（光技術研究部門より経産省研究開発課に出向中）の「ガラス被覆半導体ナノ粒子を用いたバイオマーカー及び発光素子の作製、販売」が特別賞「アントレプレナー賞」を受賞しました。

http://www.ics-inc.co.jp/nanotech/nanoweek2006/nanoweek_06bj.html

